

# 自 己 評 価 表

(令和3年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国家社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方の工夫や個に応じた指導を行うとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日2時間以上の家庭学習時間を旨す。 A:2時間以上、B:1.5～2時間、C:1～1.5時間 D:0.5～1時間、E:0.5時間未満			
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、ICT活用などにより授業の満足度や学習意欲を高め、授業の改善を進める。  校内研究授業や相互参観授業で、年間4回以上授業を参観して、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回			
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に、個別指導等の徹底や資格取得への意識を高めることにより、上級資格取得の奨励に努める。基礎・基本、実務に役立つ2・3級の合格者を増やす。 A:50人以上、B:40～50人、C:30～40人 D:20～30人、E:20人未満			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。 A:98%以上、B:96～98%、C:94～96% D:92～94%、E:92%未満			
	生徒理解の推進	5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を旨す。 A:70日以上、B:55～70日、C:40～55日 D:30～40日、E:30日未満			
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間4回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回			
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。			
	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。交通ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標			
進路指導	個に応じた進路保障	学年団と進路課が連携をとりながら、1年次から進路意識を高める指導を継続的に行う。多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、希望進路達成率100%を目指す。 A:100%、B:90～100%、C:80～90% D:70～80%、E:70%未満			
	進路指導力の向上	入試改革や学部・学科変更等の情報収集を行い、校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。			
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組、デジタルサイネージの活用等を通し、生徒が自ら考え、行動する力を育む。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など、職業理解の機会を増やす。			
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。県総体出場100人以上を達成する。 A:100人以上、B:80～100人、C:60～80人 D:40～60人、E:40人未満			
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、4つ以上の部と20人以上の参加を目指す。 A:4つ以上の部で20人以上参加 B:4つ以上の部で15人以上の参加、又は、3つの部で20人以上の参加 C:3つ又は2つの部で15人以上の参加 D:2つの部で15人未満の参加 E:D評価に届かない場合			
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。			
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。 A:5回以上、B:4回、C:3回 D:1～2回、E:0回			
同和・人権・教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、多様化する人権課題への啓発活動や現地研修会などを実施し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標			
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。校外活動にも積極的に参加して <u>地域との交流を深め、親しみやすく開かれた学校づくりに努める。</u>			
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	P T A ・同窓会や地域の諸団体と協力し、「総合的な探究の時間」や課題研究で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、文部科学省の「 <u>地域との協働による高等学校教育改革推進事業</u> 」の一環として、S D G s の観点を踏まえた授業や地域貢献活動等を積極的に実施し、特色ある学校づくりに努める。			
業務改善	適切な勤務時間	教職員の定時退勤日の設定や部活動の休日の確保などにより、教職員の勤務時間を守る。また、I C T 導入で業務の効率化・平準化を図り、時間の有効活用を推進する。			
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的を実施したり、休憩場所の環境改善を行ったりすることで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。